とある奇跡の超能力者

アカルト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
とある奇跡の超能力者

【Ｎコード】
Ｎ００４４ＢＡ

【作者名】
アカルト

【あらすじ】
暇つぶしに書いた駄文です
好評だったら連載する……かもしれない

「ん～、ねみぃ……昨日ホラー映画なんて見るんじゃなかったな……苦手な癖に」

暗くなった路地を、背の低い青年が道を歩いている
手には学生鞄、服はどこかの制服
どこにでもいそうな学生、顔は整っているが背の低さによって残念になっている

「あ～、でも今日は久しぶりに世にも奇○な物語するんだったっけ？見たいな～、でも俺あれも苦手なんだよな～、だけどな～」

外の気温からか？その青年はいかにもだるそうな声を上げて歩き続ける
ここ、［学園都市］では今日からしばらくの猛暑となるらしい、そのお陰で、日が落ちてからもご覧の有様だ、天気予報が外れる事は無いのでその現実を受け止めながら……至って普通な青年、［光行（みつゆき）健斗（けんと）］は帰路につく

「そういえば俺、ちゃんとレベル０になってるよな？ほんと鬱になるよな～、隠さないと安全が補償されないって……こんな街、来なけりゃよかった」

ブツブツと独り言を呟きながら健斗は空を見上げる
「星が見えねぇ」と、また文句を言いながらも近くにあったコンビニに入り適当な弁当とファ○タグレープを買い、何故か隣の宝くじ売り場へと向かう

「おばちゃん、ドリーム〇ャンボ一枚バラで頂戴」

「（一枚だからバラもくそも無いんじゃないかい？）ほれ、三百円」

五六十歳ぐらいのおばちゃんから宝くじを買い取った健斗は「サンキュー」と言い残してからまた帰路に着く

ちなみに買った弁当は［黒毛和牛の焼肉弁当］、どうやら金には困ってないらしい

それから五分程歩いた後、自分の住んでいるアパートの近くでまた空を見上げる

さっきよりも街頭の光が少なくなっているので幾つかは星を眺めることができる

それを確認した後「早く寝よ」と視線を戻そうとするが……その目はある一点を見つめて離さない

「なんで萌え、いや、燃えてんだよ」

自分が住んでるアパートは……何故か燃えていた

一様まだ自分が住んでる下の階のみだったがこのまま放っておくといつ炎が回ってくるかしれたもんじゃない

「えっと……こうゆう時は１１０だったっけ？それとも１１７か？」

残念だがどちらも外れだ、テンパっている時人は冷静さを失う……そういう事にしておこう

「だーーもうめんどくさい！！俺が消せばいいんでしょ俺が！！」

誰に向かって叫んだのかは知らないがいきなり怒鳴り散らす、ここに第三者がいたら「え？なにあの子、頭可笑しいんじゃないの？」的な会話がされるだろう

「全くもう、まずはこの階に住んでる奴の非難だなっ……と？」

階段を登った先にいたのはウニ見たいな頭をした普通の学生と黒いエセ神父、そして厨二乙、という様な炎の怪物

学生（ウニ）の後ろでは血まみれ幼女が魔術やらルーン文字やらどうたらこうたら言っているが健斗はその状況をいまいち掴めていない

「おお、ウニ君は素手であの攻撃を受け止めますか……なんという少年漫画的な展開」

どうやら目の前の二人は自分がいる事を気づいていないらしい
目の前の炎の怪物にちょっとした命の危機を感じ取った健斗はそそくさと逃げようとするがウニ君はこちらに向かってくる……あっ、気づかれた

「なっ！？なんでこんなとこにいんだよ！！早く逃げろ！！」

いや、逃げ様としてたのを邪魔したのお前じゃなイカ
おうおう、あの神父様はどうやら相当お怒りのようだな、炎をこっちに投げてきたよ
その際に厨二的なセリフが聞こえた様な気がしたんだが気のせいか？

「っ！！くそっ！」

ウニ君が右手を差し出すとあら不思議、炎が綺麗さっぱり消えてし

まいました
こいつら俺を客に手品でもやろうってのか？
「いつから部外者が……くっ、仕方がない、魔女狩りの王（イノケンティウス）！！」
ボーっと眺めているとさっきの怪物がこっちに向かってくる、、ウニ君は「逃げろっ！」
ていって怪物に向かっていくんだけど……そういう命の捨て方をする時は好きな女の子とかにするもんだぜウニ君、こんな見ず知らずの男の為に犠牲にするもんじゃないぞ
「馬鹿が！！ルーンがある限り魔女狩りの王（イノケンティウス）は再生する、さっさと死ね！！」
「俺が時間を稼ぐ！！だから」
「あ～、うん
もう大丈夫」
その瞬間、

炎の怪物は［弾けた］

比喩ではなくマジで……中からバンッて……
目の前のウニ君も、黒いエセ神父もビックリしてる、ちなみに彼等は何にもしてないぞ

「ルーンがある限り再生するって事はその［ルーンとのつながりが切れちまえば］消滅するのか……見た目だけかよつまんねぇ」

「ルーンとのつながりを切っただと……そんな事はあ、り得ない……イノケンティウス……イノケンティウスゥゥゥゥ！！」

あれがあいつの切り札って事かよ、ほんと見た目だけだな

「ふ、ふざけるな！！ルーンはこの建物全体に貼られている！！それを全て剥がしたというのか！！」

「そんなめんどくさい事しねぇよ、ただ［奇跡的に］その魔術とやらが解除されただけだ」

目の前のウニ君もエセ神父も目を見開く

「吸血殺しの」

「？」

「紅十字！！」

エセ神父の手の平からレベル４相当の、十字の炎が放射される……
切り札を潰したんだからさっさと帰れよ

「ほんと……つまんねぇ」

だが俺らに当たる瞬間……その炎は［いきなりきた強風によって］
全く違う方向に曲がり、壁を焦がす

「な、に、」

「おおすげぇ、［奇跡的に］ここだけ強風がふいて［奇跡的に］炎
が外れたな」

ウニ君なんて目の前の光景が信じられない様に目をパチクリさせる

「ああ、あと奇跡的に」

「ぐっ！？」

エセ神父が身構える、だから甘いって……

「お前は気絶するらしい」

俺がそうつぶやくとエセ神父はいきなり胸を抑え……その場に倒れた

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0044ba/

とある奇跡の超能力者

2011年12月31日00時45分発行